

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立深谷高等学校)

目指す学校像	「文武両道」を目指し、心豊かな生徒を地域とともに育てる学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上を目指し、考える力を育てる。 2 生徒の視野を広げ、地域社会に貢献できる人財を育成する。 3 規範意識を醸成するとともに教育活動全般において、豊かな心を育む。 4 保護者・地域との連携により、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
実施日 令和6年2月2日							
学校関係者からの意見・要望・評価等							
1	【現状】 学力向上のため、教員間で教科指導力向上に取り組んでいる。 【課題】 幅広い学力層の生徒に対し、個に応じた補習や課題などきめ細やかな学習指導が必要である。	・教員が相互に研鑽することで授業の工夫改善に努め、自ら考える教育活動の実施	①習熟度別授業、少人数学級編成等によるきめ細かな授業を実施し、一層の学力の向上を図る。 ②「考える授業」を意識し、教員相互の授業観察や研究授業を实践し、授業力の向上を図る。 ③学力の伸長と業者テストでの学習到達率の向上を目指す。 ④各種検定を引き続き受験させ、短期目標設定により学習意欲を高める。 ⑤ICT機器(プロジェクタやタブレット)を活用した授業を推進するとともに、BYODやGoogle Classroom等の効果的な活用を図る。	①成績優良者、欠点保有者、成績不振に関わる転退学者の状況、評価アンケート「授業がわかりやすい」のポイント90% ②教員相互の授業観察への参加 ③学習到達率の向上状況 ④検定試験の受験者数10%増 ⑤ICT機器(タブレット端末)とGoogle Classroom等の学習場面での活用状況	基礎学力の定着と学びへの意識の向上を図るための実践を行った。 ①成績優良者 1%減 欠点保有者 1%減 成績不振に関わる転退学者の状況 0名 「授業がわかりやすい」(アンケート) R3: 88%→R4: 89%→R5: 90% ②授業見学期間を1回設定し、教員相互の授業見学、公開授業、研究授業の実施 ③学習到達ゾーン: 約30%向上 ④英語検定 43名受験、漢字検定 49名受験 文章力検定 172名受験、数学検定 8名受験 ビジネスマナー検定 9名受験 計10%増加 ⑤授業等でのGoogle Classroomの積極的な活用	A	・幅広い学力層の生徒に対し、考える力を育てる授業の充実や、個に応じた補習や課題など、きめ細やかな指導が必要である。
2	【現状】 生徒の多様な進路希望に対し、担任・進路指導部を中心に、個に応じた進路指導を行っている。就職希望者や総合型選抜希望者が増えている。 【課題】 進路ガイダンスや説明会等を進路指導部・学年でさらに組織的・計画的に行い、希望進路を実現する。	・多様な生徒個々に応じた計画的で丁寧な進路指導による生徒全員の希望進路の実現 ・特進クラスの特色化	①二者・三者面談を実施し、生徒に寄り添い、一人一人の進路意識を向上させる。 ②各学年が進路指導部と連携し、生徒の実態に合わせた進路行事を実施する。 ③キャリアパスポートを活用し、生徒に振り返り活動を行わせ、明確な目標を設定する。 ④ハローワークなどの外部機関と連携するとともに、就職支援員を活用し、生徒の就職活動を支援する。 ⑤総合型選抜希望者への支援活動を行う。	①②③進路決定率100% ④就職希望者の内定取得率100% ⑤小論文指導、面接指導の状況	「進路指導では、一人一人にきめ細かい指導をしていく。」(アンケート) 90%の生徒が「そう思う」と回答するなど、進路実現のために組織で各実践を行えた。 ①②③ 進路決定率 94% ④就職希望者の内定取得率 100% ⑤小論文作成や、専門学校に関する職員研修を実施。JSTを中心に面接が必要な生徒に対して、面接指導を実施。	A	・生徒の多様な進路希望に対し、学年・進路指導部を中心に、個に応じた進路指導を行っていく。
3	【現状】 生徒指導部・学年を中心とした組織的な指導により、基本的な生活習慣は定着してきている。 【課題】 遅刻指導の徹底と交通事故防止に向けた自転車の乗車マナーの向上を図る必要がある。	・規範意識を醸成し、生徒主体の学校行事や部活動をととした豊かな心の育成	①登校指導を実施し、自転車乗車マナーの向上や新制服も含めた品位ある制服の着こなしを行う。 ②授業やホームルームで全教員が一体となって組織的な挨拶・整容・遅刻指導を徹底する。 ③部活動の加入率・継続率を向上させ、部活動をとおして人間性・社会性を育成する。 ④生徒が主体となった学校行事を推進する。 ⑤SC・SSW・巡回支援員と連携し、教育相談を充実する。	①評価「自転車乗車マナーが向上したか」80% 評価「みだしなみをきちんとしている」90% ②遅刻数50%減少 ③部活動の加入率・継続率 ④生徒主体の文化祭等の実施 ⑤専門機関の活用状況	粘り強い教員の指導により、生徒の基本的な生活習慣は徐々に確立されてきている。 ①「交通安全指導をよく行っている」生徒: 89%、保護者: 90% (アンケート) 「頭髪やみだしなみをきちんとしているか」生徒: 90%、保護者: 94% (アンケート) ②遅刻者数 50.5%の減少(2/29現在) ③部活動加入率 78% 継続率 76% 昨年度比 ④コロナ後、学校行事の規模が拡大する中、生徒会を中心とした生徒主体の学校行事の実施 ⑤SC・SSW・巡回支援員と連携し、教育相談を定期的に実施	A	・時間を守ることの重要性を生徒と共に教員も再認識し、遅刻者の減少に学校一丸となって取り組んでいく。 ・自転車による事故を防ぐために、乗車マナーを向上させる。
4	【現状】 ホームページや一斉メールの活用や学校説明会で情報を発信しPRをしていく。 【課題】 本校への理解を深めるため、学校情報の発信をさらに充実させる。さらに開かれた学校づくりを推進する。	・本校の教育活動の情報発信を充実させ、地域に根差した魅力ある学校づくりと開かれた学校づくりの推進	①学校評議員会、学校評価懇話会の意見を学校経営に反映する。 ②学校ホームページ等を工夫し中学校や地域住民等へ逐次情報発信をする。 ③生徒による学校説明会や部活動体験等での学校PRの工夫、学習塾等を対象とした説明会等への参加により、本校志願者の増加を目指す。 ④生徒募集は深谷市内およびその近隣を重点とする募集活動を行う。 ⑤50周年を迎えてさらに地域との連携を図り開かれた学校づくりを目指す。	①意見の学校経営への反映 ②ホームページへのアクセス数の向上 ③学校説明会来場者数の増加、志願倍率1.0倍(10月段階) ④深谷市内中学生の志願者数の増加 ⑤地域との交流の実施状況	学校の魅力や情報を様々な機会を通じて保護者や地域へ発信したが、さらに内容や発信する対象を模索する必要がある。 ①学校評議員会、学校評価懇話会の内容を教職員へ情報共有し、学校経営に積極的に反映 ②ホームページ更新の積極的な実施 ③学校説明会の内容改善 来場者 867名 (R4 966名) 志願倍率 0.86 (10月) 0.86 (12月) ④深谷市内の中学生の志願者は減少 ⑤女子バスケットボール部・男子バレーボール部・ラグビー部が小学生との交流 手話ボランティア部・吹奏楽部が保育園と交流	B	・地域とさらに連携を図るために、情報発信の機会を増やすことや、今までとは異なる連携方法を模索していく。
達成できていない項目について、改善を行って欲しい。							
・地域の通学路等に危険を感じるがあれば、随時連絡が欲しい。生徒が普段不便に感じることを教えて欲しい。							
・地域で夏祭りを開催しているが、若者のアイデアが欲しい。生徒にぜひ企画や運営等で参加して欲しい。							
・コミュニティは大事である。まずは生徒や教員が地域や学校を好きになって欲しい。生徒の地域への貢献を周囲は見ている。							
・学校としてのストロングポイントを作る。							